

女性研究者の未来探る 保井コノ（東かがわ出身）没後50年 理学博士しのびセミナー

2022/01/04 09:25



女性研究者らが活躍できる環境について考えたセミナー＝東京・千代田区、日本工学アカデミー

東かがわ市三本松出身で日本女性初の理学博士となった保井コノ（1880～1971年）の功績を振り返り、女性研究者や技術者が活躍できる社会について考えるセミナーがあり、保井ゆかりの研究者らが出産や育児を支援する取り組みなどを紹介した。

セミナーは、日本工学アカデミーの「談話サロン」として、同アカデミージェンダー委員会と研究・イノベーション学会の女性エンジニア活生分科会が合同で企画。保井の没後50年に合わせ、12月2日にビデオ会議アプリを活用して開いた。

「女性の科学技術・工学への進出」をテーマにしたパネルディスカッションでは、保井コノ賞受賞者の原口徳子大阪大特任教授や泉谷俊郎三本松高校長ら6人が参加し、女性研究者の育成事例や高校教育の現状などを報告した。保井の遠縁に当たる東かがわ市の島田治さん（84）は「差別と闘った強い女性。広い視野で研究に当たることや語学の必要性を訴えた人だった」と人柄をしのんだ。

セミナーを企画した丸亀市出身の吉祥瑞枝女性エンジニア活生分科会長は「女性の研究・労働環境はまだ厳しい。これからも先人に学び、女性が生き生きと活躍できる環境づくりを目指したい」と話した。
（東京支社）

[記事本文へ](#)

SHIKOKU NEWS 内に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright (C) 1997-2022 THE SHIKOKU SHIMBUN. All Rights Reserved.

購読のお申込みは
オハヨーシコク
0120-084-459
【受付時間】9:00～18:00